

世界を変えよう基金報告書

第8回つくばリサイタルシリーズ

カルテット・アマービレ ～若き才能の織りなす未来の音～

1. つくばリサイタルシリーズ実行委員会について

つくばリサイタルシリーズ実行委員会は、つくば市でプロの演奏家によるコンサートを運営する学生団体である。つくばの学生及び広範な市民が経済的に大きな負担を伴わずに本物のクラシック音楽を鑑賞できる機会を提供することを目的としており、2019年度で第8回目の活動となる。通常、プロの演奏を聴くためには高額なチケットを購入する必要があるためか、クラシックに対して敷居の高さを感じる人は多い。その意識を変えるため、つくば市民にとって身近な土地で、手軽な価格かつ『本物のクラシック』を広めることを目的とした本シリーズの基本方針は例年のアンケート結果を通じて来場者のみなさまからも高い評価を受けている。

企業協賛やクラウドファンディングといった手段により活動資金を確保し、可能な限り低価格かつ高品質な演奏会を実現している。

2. 今年度事業の概要

事業名：第8回つくばリサイタルシリーズ

カルテット・アマービレ ～若き才能の織りなす未来の音～

実施日：2020年1月26日(土) 13:30 開場 14:00 開演

会場：筑波大学春日講堂

価格：一般 1000 円 学生無料(要申込)

出演：カルテット・アマービレ (弦楽四重奏)

篠原悠那 (第1ヴァイオリン)

北田千尋 (第2ヴァイオリン)

中 恵菜 (ヴィオラ)

笹沼 樹 (チェロ)

曲目：ハイドン作曲 弦楽四重奏曲第 53 番ニ長調 Op.65-5 Hob.III-63 『ひばり』

江藤光紀作曲 弦楽四重奏第 3 番(初演)

ウェーベルン作曲 緩徐楽章

メンデルスゾーン作曲 弦楽四重奏曲第 6 番へ短調 Op.80

当日の様子：



写真1：開場直後のロビーの様子



写真2：演奏会でのトークの様子



写真3：出演者と実行委員での集合写真

3. 活動の達成度

・弦楽四重奏というテーマと広報活動について

今年度で第8回となる本活動は、ミュンヘンコンクールで入賞を果たしたカルテット・アマールを招聘し、弦楽四重奏のコンサートを企画した。

つくばリサイタルシリーズの顧客はその目的上、クラシックの愛好家とそうでない人々の双方を対象としている。前回の金管五重奏よりも弦楽四重奏に馴染みのある人は大学内だけを見ても少ない傾向にあり、当初の反応は前回は下回るほどのものであった。また昨今の不況の影響もあってか、協賛企業からの協賛金は半分ほどとなってしまったために予算的にも厳しい状況となる見通しであった。

一方今回は出演者の年齢層が比較的若かったため、SNSによる情報発信に重点を置き、より多くの人への周知を徹底した。またブログの更新頻度を低くすることなく閲覧者数を増加させるために実行委員による情報発信も積極的に実施したことも幸いし、当日には従来の本シリーズでは見られなかった長蛇の列が見られるほどになった。しかし当日までに予定枚数のチケットが完売し、当日券が発見できないことによるトラブルが発生し、これにより足を運んでいただいた方が演奏を聴くことができなくなってしまった点は最も改善しなければならない点であり、その手段として電子媒体以外の広報活動による告知についてさらに勉強する必要があるだろう。

・アンケートからの分析

SNSなどを駆使したり、ブログの更新頻度を昨年度より強化したが、知人や授業など人伝いで直接的告知による効果が大きかったように見える。一方でビラやポスターによる宣伝効果も一定数確保されているため、継続していく必要がある。

チケットの申し込み方法では、フォームを利用した人が非常に多かったため今後も継続していく。また知人から受け取った来場者も一定数存在したため、人同士のつながりを重視する方針は強化していく必要がある。

コンサートの長さにはほとんどの来場者がちょうど良いと回答しており、進行についても良い評価が非常に多かったため、来年度以降も継続していきたい。また今年度の課題であると委員が懸念していた会場であったが、比較的多くの方に満足と答えていただけただけのため、委員が思っていたほど悪くはなかったのではないかという印象を受けた。こうした会場を利用したコンサートも開催する可能性が拓けたので、来年度以降に反映させていきたい。

最終項目の全体評価では、すべての来場者が満足またはやや満足の項目を選択していたため、非常に満足度が高い演奏会を実現できたのではないだろうか。今後とも来場者に満足していただける演奏会を企画・運営をしていきたい。

年齢層は大学生を中心とする20代と社会人の50代～70代が多く二極化していた。来場者層はこれまでと変化していないように見えた。

アンケート結果をまとめたものの一部を以下に示す。

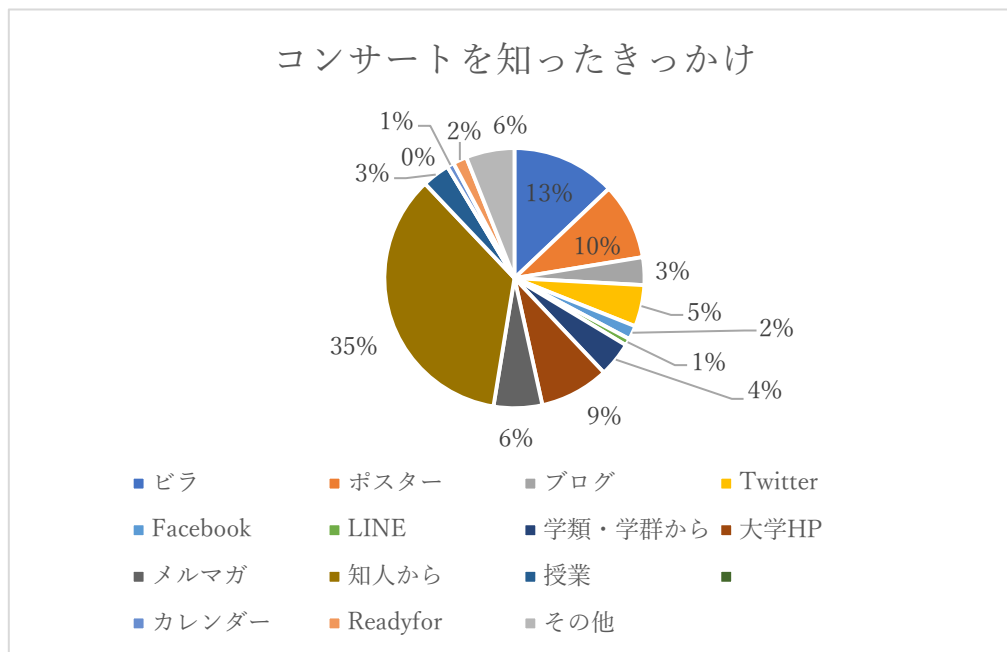


図1. コンサートを知ったきっかけ

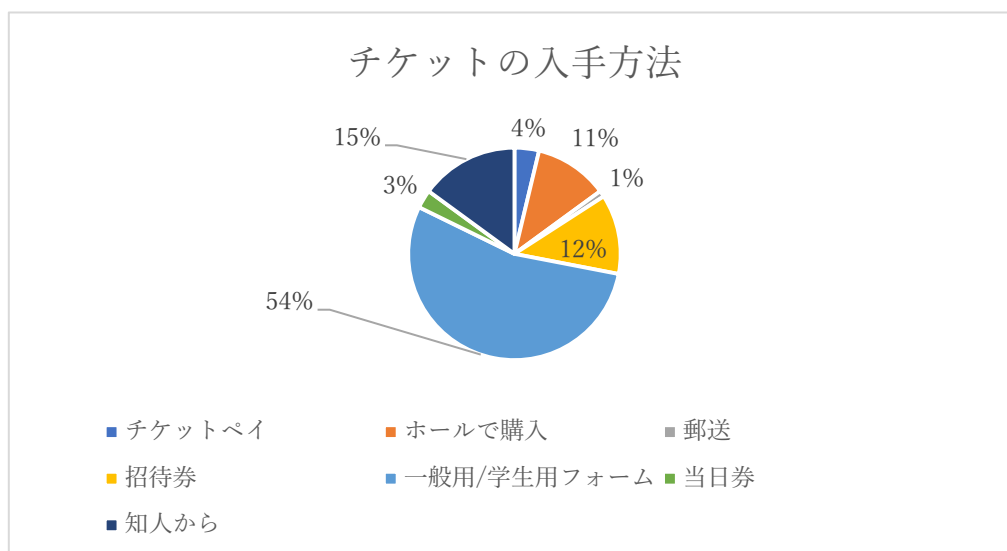


図2. チケットの入手方法

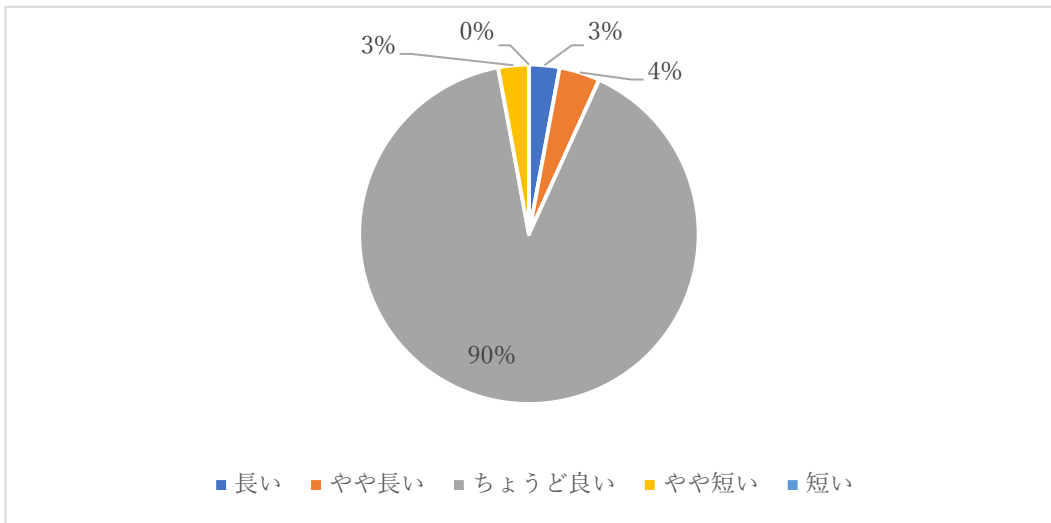


図 3. コンサートの長さ

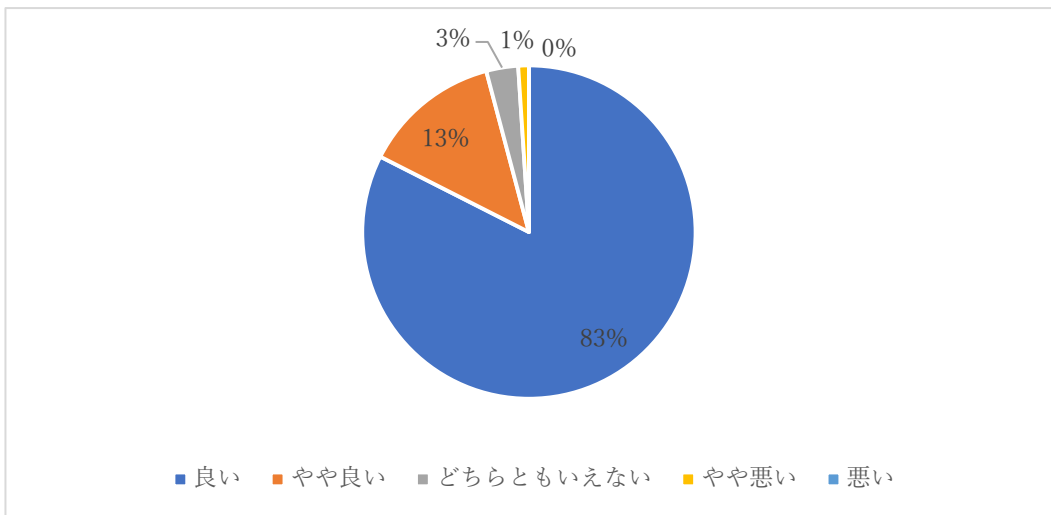


図 4. コンサートの進行の良し悪し

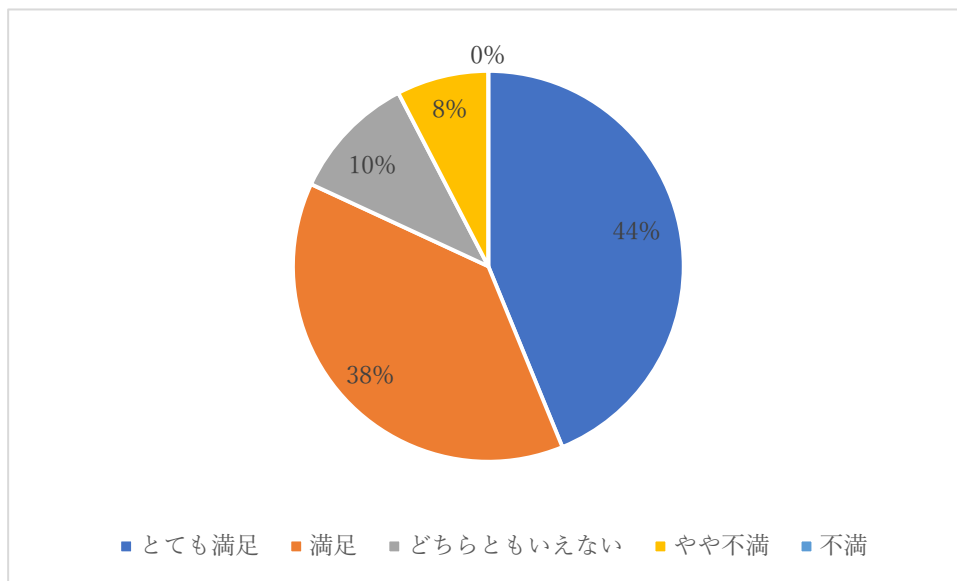


図 5. コンサート会場の満足度

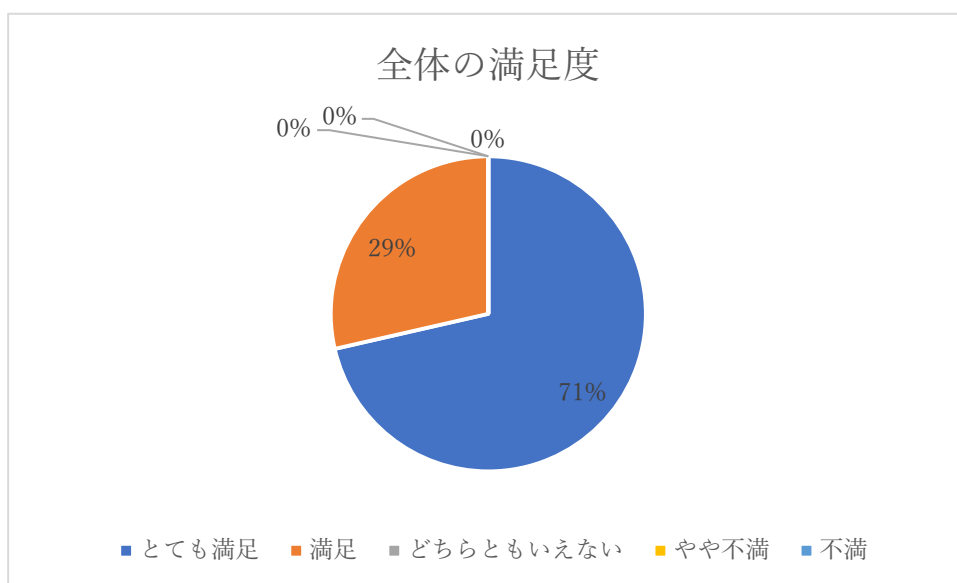


図 6. コンサート全体の満足度

・運営体制

昨年度の終盤に運営体制について、現在の2年生が不在であるために活動の縮小を検討していたが、多くの1年生に参加してもらうことで運営体制の抜本的転換と人員確保を達成できた。また各所に今後の活動となるモデルを構築するための工夫を行い、安定した活動を継続していけるような体制を敷く1年であった。

この改善により広報活動やチケット対応については非常に滞りなく運営できたのだが、資金確保を目的とする点(特に渉外活動)においては多数の課題が残ったため、来年度以降に改善する余地が非常にあるといえよう。この点は資金確保のために非常に重要であるほか、将来的な『世界を変えよう基金』からの援助を必要としない、所謂独立した形式での運営を実現に必要な不可欠であるため、早急に検討する。

またこうした今年度の実施したこととそれに伴う成果と課題を、来年度の実行委員で共有しつつ改善をしてもらうために、引継書による形式的な記録を義務付けることとした。

改善を重ねることにより、年2回開催やノバホールでの開催など、大きな短期的目標を達成することが可能になるのではないだろうか。

4. 総評

過去最高の来場者数を記録した今回の演奏会では、数々の制約条件下でありながら非常に満足度の高いものを創り上げることができたのではないだろうか。アンケート結果からなどからもわかるようにつくば市という地域における文化振興という目的は達成したといえるのではないだろうか。

来年度はつくば市などともタイアップをしながら、より地域に根ざした高品質な演奏会を低価格で実現していきたい。